

# 独立行政法人国立博物館の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

## 全体評価

### 評価結果の総括

館それぞれが、独自の状況の下で最大限の成果を上げていることを高く評価する。

平常展における展示方法・展示構成の工夫は、大いに評価できる。特に、文化財の保存修理の展示室の開設など次世代への継承にも大きな成果が得られるものと期待する。特別展では伝統的なテーマの企画に加えて、若冲など斬新で重厚な展示がされ、結果として入館者の増加につながっている。

事業費削減等の中で、収集保管・調査研究などについても最大限の努力がなされ、その成果が、博物館・美術館・中核となる保存修復関係者等に対する支援・援助・助言となっており、我が国の文化財の保存活用についてのナショナルセンターとしての役割を果たしている。

### <参考>

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 A

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 A

財務・人事 A

### 評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

独立行政法人になって、それぞれの館が特徴を持って活発に活動を行い大きな成果を上げてきた。平成19年度からの文化財研究所との統合により、保存修復に関する調査研究の成果や、一般公開施設への保存・展示・公開に関する情報を共有して業務を効果的に遂行することが重要と考える。

また、特別展における混雑緩和策についての一層の検討が課題と考える。

### 評価結果を踏まえて今後の法人が進むべき方向性

文化財の保存及び活用という同一の目的を有する文化財研究所との統合を踏まえ、法人全体として、展示方法・展示構成の工夫や調査研究の成果等を共有して、一層の業務の質の向上・効率性の向上を図りたい。

### 特記事項

平成19年度からの文化財研究所との統合により、国民の共通財産である文化財の保存及び活用を一層効果的かつ効率的に推進することができる体制が整備されることとなることから、今後のますますの成果を期待する。

また、それにより、我が国の文化財の保存活用についてのナショナルセンターとしての役割をなお一層果たしていくことを期待する。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会

国立文化財機構部会委員名簿

(五十音順)

(委員)

河野 栄子 株式会社リクルート特別顧問

竹内 順一 東京芸術大学美術学部芸術学科教授

(臨時委員)

池上 徹彦 宇宙開発委員会委員

吉川 周平 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長

嶋田 実名子 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門CSR推進部長

武田 佐知子 大阪外国語大学外国語学部国際文化学科教授

増澤 文武 財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員

宮島 博和 公認会計士宮島博和事務所

: 部会長

# 独立行政法人国立博物館の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A					(大項目名)業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A				
(中項目名)日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承	A					(小項目名)業務の効率化	A				
(小項目名)収蔵品の収集	A					(小項目名)外部評価等の実施	A				
(小項目名)収蔵品の管理、保存	A					(小項目名)情報の安全向上	A				
(小項目名)収蔵品の修理、保存処理	A					(小項目名)人件費の削減	A				
(小項目名)収集、保管のための調査研究	A					(大項目名)財務・人事	A				
(中項目名)文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	B					(小項目名)予算(人件費の見積もりを含む)収支計画及び資金計画	A				
(小項目名)展示の充実	S					(小項目名)人事計画に関する計画	A				
(小項目名)情報発信機能の強化	B										
(小項目名)日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進	A										
(小項目名)展示、教育普及活動などの博物館活動のための調査研究	A										
(小項目名)快適な観覧環境の提供	B										
(中項目名)我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A										

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
収入						支出					
運営費交付金	4,688	5,128	5,955	6,622	6,103	運営事業費	5,083	5,346	7,180	9,158	6,864
施設整備費補助金	308	39	2,159	312	0	人件費	2,154	2,181	2,345	2,257	2,083
展示事業収入	939	917	995	1,339	1,478	業務経費	2,929	3,165	4,835	6,901	4,781
その他寄附金等	50	41	51	51	51	一般管理費	403	628	664	1,001	860
						展覧事業費	1,932	1,714	2,581	4,744	2,984
						調査研究事業費	372	407	573	1,039	869
						教育普及事業費	52	84	114	117	68
						九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	170	332	903	0	0
						施設整備費	308	39	2,158	808	518
計	5,985	6,125	9,160	8,324	7,632	計	5,391	5,385	9,338	9,966	7,382

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

・人件費には退職手当を含む。

平成16年度の施設整備費は九州国立博物館展示工事等を含む。

平成13年度から九州国立博物館設立準備経費が措置され、業務経費・人件費は17年度の九州国立博物館開館に向けて増加している。

九州国立博物館の定員の推移は、14年度（8名）、15年度（16名）、16年度（26名）、17年度（28名）、18年度（29名）である。

九州国立博物館の機関設置に伴い、平成17年度からは他の業務経費に九州国立博物館分も含まれている。

平成16年度の展覧事業費・一般管理費等には、目的積立金の使用分（約5億6千万円）が含まれている。

平成16・17年度については、一般管理費による施設等の老朽化対応・耐震対策、展示事業費による展示環境の充実・九州国立博物館の来館者増加対応経費などの増加分が含まれている。

平成17・18年度支出の施設整備費には、還付消費税による施設整備分が含まれている。

（単位：百万円）

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
費用						収益					
経常経費	4,399	4,776	5,709	6,579	5,390	運営費交付金収益	3,684	4,001	4,166	4,716	3,930
人件費	2,189	2,236	2,389	2,307	2,329	展示事業等の収入	898	917	1,062	1,488	1,478
業務経費	2,210	2,540	3,320	4,272	3,061	寄付金収益	53	41	48	43	37
一般管理費	498	580	563	957	589	資産見返負債戻入	122	122	138	239	332
展覧事業費	1,022	1,154	1,480	2,158	1,618	臨時利益	33	0	0	140	3
調査研究事業費	383	399	532	800	449						
教育普及事業費	53	85	101	109	66						
九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	132	201	507	0	0						
減価償却費	122	121	137	248	339						
臨時損失	46	12	0	27	103						
計	4,445	4,788	5,709	6,606	5,493	計	4,790	5,081	5,414	6,626	5,780
						純利益	345	293	-295	20	287
						目的積立金取崩額	0	21	295	-104	0
						総利益	345	314	0	-84	287

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

・人件費には退職手当を含む。  
 平成13年度から九州国立博物館設立準備経費が措置され、業務経費・人件費は17年度の九州国立博物館開館に向けて増加している。  
 平成16・17年度については、施設等の老朽化対応・耐震対策、九州国立博物館の来館者増加対応経費などの増加分が含まれ、一般管理費・展覧事業費が増加している。  
 平成16年度の九州国立博物館設立等準備事業費には、施設設備等の保守経費・業務委託経費・展示環境整備経費等が含まれている。  
 九州国立博物館の機関設置に伴い、平成17年度からは他の事業費に九州国立博物館分も含まれている。  
 平成18年度の臨時損失は、施設整備に伴う固定資産除却損である。  
 平成17年度は第1期中期計画の最終年度に当り、運営費交付金は全て収益化されている。

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	4,084	4,626	5,086	6,843	5,146	業務活動による収入	5,761	6,144	7,042	8,141	7,788
投資活動による支出	1,782	1,249	2,312	4,034	3,227	運営費交付金による収入	4,688	5,128	5,955	6,622	6,103
財務活動による支出	0	0	0	13	13	展示事業等による収入	1,073	1,016	1,087	1,519	1,685
翌年度への繰越金	2,947	3,267	3,789	2,671	2,075	投資活動による収入	432	0	878	1,631	2
						施設費による収入	432	0	878	1,631	0
						固定資産売却による収入	0	0	0	0	2
						財務活動による収入	1,494	51	0	0	0
						前年度よりの繰越金	1,126	2,947	3,267	3,789	2,671
計	8,813	9,142	11,187	13,561	10,461	計	8,813	9,142	11,187	13,561	10,461

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

資金支出における平成16年度以降の業務活動・投資活動の増には、九州国立博物館設立準備、展示工事等の分が含まれる。  
 平成14・15年度の財務活動による収入は、平成13・14年度の現物出資に伴う消費税の還付額である。

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資産						負債					
流動資産	3,045	3,370	5,221	2,851	2,185	流動負債	1,030	1,570	3,935	2,527	2,347
固定資産	153,955	153,954	169,662	172,454	173,448	固定負債	845	867	1,213	2,300	2,415
						負債合計	1,875	2,437	5,148	4,827	4,762
						資本					
						資本金	72,692	72,692	86,247	86,247	86,706
						資本剰余金	81,960	81,445	83,301	84,210	83,875
						利益剰余金	473	750	187	21	290
						(うち当期未処分利益)	345	314	0	-84	287
						資本合計	155,125	154,887	169,735	170,478	170,871
資産合計	157,000	157,324	174,883	175,305	175,633	負債資本合計	157,000	157,324	174,883	175,305	175,633

備考 (指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

平成16年度の流動資産の増は資産九州国立博物館分施設整備費の未入金分を含む  
 平成16年度の固定資産・資本金の増は九州国立博物館の建物現物出資を含む

参考資料3]利益 (又は損失)の処分についての経年比較 (過去5年分を記載) (単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
当期末処分利益					
当期総利益	345	314	0	-84	287
前期繰越欠損金	0	0	0	0	0
利益処分額					
積立金	4	101	0	-84	0
独立行政法人通則法第44条第3項により					
主務大臣の承認を受けた額	341	213	0	0	287
業務拡充積立金	247	213	0	0	287
施設改修積立金	94	0	0	0	0

備考 (指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

平成15年度の積立金は、収入実績の一部科目 (入場料収入)が前年度を上回っていなかったため、目的積立金として認められなかったものである。  
 平成16・17年度については、施設等の老朽化対応・耐震対策、展示環境の充実、九州国立博物館の来館者増加対応などのため、剰余金が生じなかったものである。

参考資料4]人員の増減の経年比較 (過去5年分を記載) (単位:人)

職種	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
定年制研究職員	87	92	97	94	99
任期制研究系職員	0	0	1	1	2
再任用研究系職員	0	1	0	0	0
定年制事務職員	88	88	91	93	88
任期制事務職員	0	0	0	0	0
再任用事務職員	0	0	0	1	3
定年制技能・労務職員	40	38	34	30	26
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	0	0	0	0	0
指定職相当職員	1	1	1	2	0

備考 (指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

- S 特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)
- A :中期計画通り または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。
- B :中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。
- C :中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満)
- F 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定

A

3分の2の中項目、9分の6の小項目でA評定を受け、またS評定の小項目もあり、全体としてバランスよく業務が行われ、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

中項目の評価	評定
1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A
2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	B
3. 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A

【中項目評価】

1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

評定

A

すべての小項目でA評定を受けており、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

事業費の削減等の中で、寄贈などの働きかけにより、コレクションを充実させると同時に、保存管理に際し、保存環境の調査研究の成果も踏まえて、ICタグ導入の試み、温湿度・空気汚染物質の分析の基本的調査、IPM（総合的有害生物管理）、炭酸ガス燻蒸など積極的な文化財の保存管理が実施されている。

積極的な応急修理が継続的になされているのみならず、保存修理に関する展示室の開設、修理室や収蔵庫の見学の実施など、保存修理を表に出し、文化財の保存管理の実態を一般に紹介するとともに、ボランティアの多様な活用は、文化財の次世代への継承にも大きな成果が得られるものと期待できる。

また、文化財やその背景など収集・保管のための調査研究、展示のための調査研究を着実にやり、その成果が観覧者に還元されていることは評価できる。



中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価	
		S	A	B	C	F			
<p>(1) - 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための継続収集を行う。</p> <p>(東京国立博物館) 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(奈良国立博物館) 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文</p>	<p>1. 収蔵品の収集</p> <p>購入、寄贈・寄託の受け入れにより、体系的・通史的にバランスの取れたコレクションを形成すること。</p>	各委員の協議により評定を決定する。					<p><b>主な実績</b></p> <p>収蔵品 119,979 件 (うち新収品 240 件 購入 55 件、寄贈 173 件、編入 12 件) 文化財購入費 8 億 4 千万円 17 年度 11 億 7 千万円 (3 億 3 千万円減) 寄託品 12,415 件 (うち新規寄託品 1,347 件) 17 年度 11,270 件 (1,168 件増)</p> <p><b>自己評価</b></p> <p>18 年度も展示や研究に活かせるような文化財の収集に努め、240 件の新収品を得た。事業費の削減等により、文化財購入費が昨年度に比して大幅な減額となったが、結果として寄贈や寄託を積極的に増加させることができ、コレクションをより充実させることができた。</p> <p>購入費が削減された中で、東京国立博物館「蓮池庵絵巻利厨子及び舍利塔」や京都国立博物館「古文書手鑑」などコレクションのバランスを図り、日本通史を概観すること等を目的とする収集を実施し、展示の充実を図る文化財を購入することができた。</p> <p>寄贈については個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、173 件の文化財を新規で寄贈いただくことができた。特に東京国立博物館への西川摩作品や奈良国立博物館における寄託品の新規寄贈など日頃からの良好な関係が寄贈に繋がっているため、今後も積極的な働きかけを行ってきたい。</p> <p>寄託品については昨年を引き続き、引き上げが増加傾向にあるが、九州国立博物館への寄託が新たに 1,102 件あるなど、新規の寄託の開拓にも努めているところである。</p>	<p>評定 A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>文化財の収集については、日頃の信頼関係の中で成立するものである寄贈や寄託を、積極的な働きかけによって増加させ、コレクションをより充実させることができたことは評価でき、今後もその努力を期待する。</p> <p>購入については、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、一定の収蔵品収集プランの下に行われるものであり、博物館としては重要な業務であることから、事業費等の削減の中でも一定範囲は確保すべきである。</p>	
		寄託件数	A	B	C	実績			定量的評価面
		東京国立博物館	2,400 件止	1,680 件以上 2,400 件未満	1,680 件未満	2,773 件			A
		京都国立博物館	6,000 件以上	4,200 件以上 6,000 件未満	4,200 件未満	6,179 件			A
		奈良国立博物館	1,960 件以上	1,372 件以上 1,960 件未満	1,372 件未満	1,957 件			B

文化交流を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。		九州国立博物館	350 件以上	245 件以上 350 件未満	245 件未満	1,506 件	A	
<p>(1) - 2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p> <p>(2) - 1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場 収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</p>	<p>2. 収蔵品の管理、保存</p> <p>展示場 収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的かつ速やかに実施すること。</p> <p>保存環境の調査研究等を実施すること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <p><b>収蔵品の管理・保存</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館地下の特8 収蔵庫の改修（東京）</li> <li>・文化財保存修理所空室職設備の改修（京都）</li> <li>・免震付き展示ケースの設置（奈良）</li> <li>・生物モニタリングや清掃等による I P M（総合的有害生物管理）活動の実施（九州）</li> </ul> <p><b>調査研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財輸送の安全性（振動・衝撃）に関する調査（東京）</li> <li>・東京文化財研究所との先進的な光学的調査に関する共同研究（奈良）</li> <li>・帝塚山大学との斑鳩地区出土古瓦の保存修理に関する共同研究（奈良）</li> <li>・ポーラ財団助成金による紙文化財の保存修復に関する研究（九州）</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>収蔵品の管理・保存については、収蔵庫の整備、展示環境の改善等順次、改善を図っているが、今後も継続して実施していく必要がある。保存にかかる調査研究についても継続的に実施していく必要がある。</p>				<p>評定 A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>各館の空調管理、温湿度等の環境別定は、博物館としては当然であるが、きめ細かな対応を行っており評価できる。</p> <p>収蔵庫は入館者の目には見えない部分だが、文化財保護という観点からは重要であり、今後とも収蔵品の品質を保つ観点からも一定の予算を割いて改善を継続していくべきである。</p> <p>九州国立博物館における I P M の実施の一環としてボランティアによる展示室の清掃等を行っていることは高く評価できる。</p> <p>収蔵品の保存環境の調査研究を、東京文化財研究所及び大学も共同で行っていることは評価でき、今後とも様々な研究機関との多角的な調査研究活動の実施を期待する。</p>	
<p>(2) - 2 収蔵品の保存環境の向上を図るため、保存環境の調査研究等を実施する。</p>	<p>3. 収蔵品の修理、保存処理</p> <p>緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること</p> <p>外部の専門家と連携する</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>収蔵品の本格修理は122 件と17 年度の172 件を大きく下回ったが、応急修理を実施するなど継続的に収蔵品の保全を図っている。</p> <p>九州国立博物館や京都 奈良の文化財保存修理所などの保存修復施設は、民間に貸与して保存修復の場を提供しており、研究者との連携の下、文化財修理のナショナルセンターとしての機能を果たしている。</p>				<p>評定 A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>収蔵品の応急修理を実施するには、その時々に合わせて、常に目配りし、的確でかつ細かな指示が求められるが、その</p>	

<p>(3) - 1 修理 保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次計画的に修理する。</p> <p>(3) - 2 伝統的な修理工術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。</p> <p>(4)次に掲げる各館の方針に従い、収集、保管のための研究計画を策定し、調査研究を計画的に実施するとともに、これらの成果を確実に業務に反映させる。なお、実施に当たっては、文化財研究所、国内外の博物館・美術館等及びその他研究機関とも連携を図るものとする。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化</li> </ul>	<p>こと。</p> <p>科学的な保存技術を取り入れること。</p>		<p>る。</p>	<p>ための体制が組まれていることを評価する。</p> <p>修理については、4館(+文化財研究所)の情報共有ならびにベストプラティクスの共有が常に必要なと思われることから、各館(等)の連携を期待する。</p> <p>なお、各館の収蔵品の保全ばかりではなく、民間への保存修復の場を提供していることは高く評価できる。</p>				
			修理件数	A	B	C	実績	定量的評価
			東京国立博物館	70件以上	49件以上70件未満	49件未満	101件	A
			京都国立博物館	10件以上	7件以上10件未満	7件未満	11件	A
			奈良国立博物館	6件以上	4件以上6件未満	4件未満	4件	B
			九州国立博物館	10件以上	7件以上10件未満	7件未満	10件	A
	<p>4. 収集、保管のための調査研究</p> <p>研究計画を策定すること。</p> <p>調査研究の成果を確実に業務に反映させること。</p> <p>文化財研究所、国内外の博物館・美術館等と連携</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <p><b>収蔵品に関する調査研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別調査「法隆寺南院内宝物」(第28回、聖徳太子絵伝)(東京)</li> <li>特別調査「古写経」(第2回)(東京)</li> <li>和書・歴史資料の調査研究(東京)</li> <li>五條市御家古墳出土品に関する調査研究(奈良)</li> <li>X線CTスキャンを利用した文化財調査(九州)</li> </ul> <p><b>展示のための調査研究</b></p>	<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>展示のための調査研究は、観覧者にとっても必要とされる研究であり、その成果として、東京国立博物館本館では、展示環境がすばらしく改善され、採光や一方無反射ガラスの使用など、また展示空間などが整備され、柔らかな雰囲気</p>				

<p>財の調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵品の調査研究を重視、特に重要な項目については特別調査</li> <li>・特別展および海外展実施に向けた事前調査</li> <li>・文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化するトータルケアシステムの構築に関する応用研究</li> <li>・文化財の展示デザインシステムの構築に関する応用研究</li> <li>・博物館情報学の構築に関する研究</li> <li>・文化財理解のための博物館教育理論の構築に関する研究</li> </ul> <p>(京都国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都文化を中心とした文化財の調査研究</li> <li>・平安仏教とその造形に関する調査研究</li> <li>・修復文化財に関する調査研究</li> </ul> <p>(奈良国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南都諸社寺等に関する計</li> </ul>	<p>すること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展、共催展等の事前調査(4館)</li> <li>・情報、教育、広報、デザイン等、博物館ならではの分野における調査研究を推進(東京)</li> <li>・妙心寺及びその塔頭、日蓮宗諸寺の調査(平成21年度に開催予定の「妙心寺展」「日蓮展」のための事前調査)(京都)</li> </ul> <p><b>継続的な調査研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿地区社寺調査(京都)</li> <li>・平安仏教とその造形に関する調査研究(京都)</li> <li>・東大寺の総合的調査(奈良)</li> <li>・春日若宮おん祭りの文化財調査(奈良)</li> </ul> <p><b>学術協定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外4機関(中国及び韓国)との学術協定による調査研究(奈良)</li> <li>・韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館、南京博物院との学術交流協定締結(九州)</li> </ul> <p><b>その他調査研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会から出土赤色磁土についての調査を受託(2件)(福岡市、大分市)(九州)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>調査研究には継続性が欠かせないが、事業費の削減により大変厳しい状況になってきている。科学研究費補助金を中心とした外部資金の獲得についての一層の努力が必要である。</p>	<p>着いた環境で観覧できるよう様々な工夫がなされていると考えられ、その成果はできるだけ他の博物館とも情報を共有して欲しい。</p> <p>文化財やその背景などの企画に関わるベーシックな調査に加え、安全な展示空間を演出するための研究は当を得ており、それが観覧者に還元されつつあると考えられ、より一層期待する。</p> <p>なお、研究に向けての資金の確保の努力はなされているようであるが、管理部門を巻き込んで獲得の努力を検討願いたい。</p> <p>今後とも引き続き計画的に調査研究を実施することを望む。</p>
---	--------------	--	---	--

<p>画的な調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究</li> <li>・仏教美術の光学的調査研究</li> </ul> <p>(九州国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究</li> <li>・文化財の科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究</li> </ul>				
---	--	--	--	--

2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信

評定

B

中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。

評価のポイント

平常展での展示方法・展示構成の工夫や、特別展での歴史・文学・仏教などの伝統的なテーマの企画に加えて若冲や琉球文化など絞り込んだ企画等、斬新で重厚な展示がなされ、結果として入館者数の増加につながっている。また、海外展は反響が大きく入場者数も多く、あわせて九州国立博物館では韓国や中国・台湾からの見学者も多いなど、内外ともに成果が評価され、十二分に目的を達している。

一方、特別展の混雑緩和策や収蔵品のデジタル化については更に努力されたい。情報提供・学習機会の提供・快適な観覧環境の提供として、様々な試みをきめ細かく行っていることは評価できる。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価																																																					
		S	A	B	C	F																																																							
<p>(1) 展示の充実</p> <p>展示については、常に点検・評価を行い、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。</p>	<p>1. 展示の充実</p> <p>国民のニーズや学術的動向を踏まえた質の高いものとする。観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。</p> <p>(平常展)</p> <p>平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること。</p>	各委員の協議により評定を決定する。					<p>主な実績</p> <p>18年度入館者数合計 364万5,003人 17年度311万5,134人(53万人、17%増)</p> <p>平常展(入館者数 114万7,784人) 17年度82万33人(32万8千人、40%増)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">館名</th> <th rowspan="2">入館者数計</th> <th colspan="3">平常展</th> <th colspan="2">特別展・共催展</th> </tr> <tr> <th>入館者数</th> <th>陳列件数</th> <th>陳列替</th> <th>特集陳列等</th> <th>入館者数</th> <th>開催回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>3,645,003人</td> <td>1,147,784人</td> <td>11,891件</td> <td>686回</td> <td>96件</td> <td>2,497,219人</td> <td>19件</td> </tr> <tr> <td>東京</td> <td>1,417,195人</td> <td>361,773人</td> <td>7,283件</td> <td>308回</td> <td>70件</td> <td>1,055,422人</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>京都</td> <td>556,750人</td> <td>146,732人</td> <td>1,550件</td> <td>59回</td> <td>9件</td> <td>410,018人</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>奈良</td> <td>477,638人</td> <td>137,739人</td> <td>1,014件</td> <td>20回</td> <td>11件</td> <td>339,899人</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>九州</td> <td>1,193,420人</td> <td>501,540人</td> <td>2,044件</td> <td>299回</td> <td>6件</td> <td>691,880人</td> <td>5件</td> </tr> </tbody> </table>	館名	入館者数計	平常展			特別展・共催展		入館者数	陳列件数	陳列替	特集陳列等	入館者数	開催回数	全体	3,645,003人	1,147,784人	11,891件	686回	96件	2,497,219人	19件	東京	1,417,195人	361,773人	7,283件	308回	70件	1,055,422人	6件	京都	556,750人	146,732人	1,550件	59回	9件	410,018人	4件	奈良	477,638人	137,739人	1,014件	20回	11件	339,899人	4件	九州	1,193,420人	501,540人	2,044件	299回	6件	691,880人	5件	<p>評定S</p> <p>コメント</p> <p>九州国立博物館の開館という影響があったにせよ、やはり、展示をわかりやすくしようという姿勢が感じられ、その結果が入場者数に表れていると考えられる。今後とも、入場者の視点に立った企画、斬新で重厚な企画を期待する。</p> <p>また、九州国立博物館では韓国や中国・台湾からの見学者も多く、国内外への発信拠点としての成果を上げている。</p>
館名	入館者数計	平常展			特別展・共催展																																																								
		入館者数	陳列件数	陳列替	特集陳列等	入館者数	開催回数																																																						
全体	3,645,003人	1,147,784人	11,891件	686回	96件	2,497,219人	19件																																																						
東京	1,417,195人	361,773人	7,283件	308回	70件	1,055,422人	6件																																																						
京都	556,750人	146,732人	1,550件	59回	9件	410,018人	4件																																																						
奈良	477,638人	137,739人	1,014件	20回	11件	339,899人	4件																																																						
九州	1,193,420人	501,540人	2,044件	299回	6件	691,880人	5件																																																						

<p>また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。</p> <p>平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に發揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語</p>	<p>作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと。</p> <p>海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置すること。</p> <p>(特別展)</p> <p>我が国の博物館の中心的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。</p> <p>特別展は年間次の回数実施すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京国立博物館 3～4回</li> <li>・京都国立博物館 2～3回</li> <li>・奈良国立博物館 2～3回</li> <li>・九州国立博物館 2～3回</li> </ul> <p>個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修理コーナーを本館17室に新設(東京)</li> <li>・来館者調査の実施(東京)</li> <li>・本館展示をリニューアル(展示レイアウト及び照明施設)(奈良)</li> <li>・本館展示に「注目の逸品」展示を新設(奈良)</li> <li>・展示室内装飾古墳バーチャルシアター及びシアター400において新作映像公開(九州)</li> </ul> <p><b>特別展(入館者数 249万7,219人) 17年度229万5,101人(20万2千人、9%増)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「若冲と江戸絵画」(31万7,712人:東京、30万171人:九州)</li> <li>・「仏像-一木にこめられた祈り」(33万5,489人)(東京)</li> <li>・「大絵巻展 国宝「源氏物語絵巻」「鳥獣戯画」など一堂公開」(18万6,772人)(京都)</li> <li>・「京焼 みやこの意匠と技」(2万5,285人)(京都)</li> <li>・重原上人800年忌「大勧進重原」(4万1,813人)(奈良)</li> <li>・「北村昭斎」展:奈良文化の近世から現代の工芸に新たに注目(1万4,571人)(奈良)</li> <li>・特別展「うるま ちゅら島 琉球」(17万7,478人)(九州)</li> <li>・「南の貝のものがたり」「発掘された日本列島2006」(6万3,560人)(九州)</li> <li>・開館1周年記念特別展「海の神々-擲げられた宝物-」(13万9,981人)(九州)</li> </ul> <p><b>海外展</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本」(カナダ・ボワンタカリエール・モントリオール考古歴史博物館)(17万1,005人)(東京)</li> <li>・「観音菩薩」(スイス・リートベルク美術館)(2万7,078人)(奈良)</li> </ul> <p><b>展覧会広報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館長お薦めの一品ポスター、チラシ(月1回)(京都)</li> <li>・博物館Dictionaryの発行(京都)</li> <li>・奈良県立美術館との広報相互協力(看板設置)(奈良)</li> <li>・平常展リニューアルに伴うポスターを作成・配布(奈良)</li> <li>・東京国立博物館ニュースの定期発行(東京)</li> <li>・博物館だより、Kyoto National Museum Letterの発行(京都)</li> <li>・季刊誌「アジアー・ジュ」の発行(九州)</li> </ul>	<p>なお、外国語の解説パネル等の設置については引き続き努力をいただきたい。</p> <p>[平常展]</p> <p>適宜展示替えが行われるなど、平常展に魅力を持たせようとする試みは評価できる。</p> <p>特に、東京国立博物館の日本美術史通覧の平常展は、展示演出・構成において国際水準に達している。</p> <p>さらに、奈良国立博物館と同様に東京国立博物館に保存修理に関する展示室が新設されたことは、一般の修復への関心を高めるとともに、文化財への興味を倍加する手段と考えられ、高く評価できる。</p> <p>[特別展]</p> <p>東京国立博物館・九州国立博物館の「若冲と江戸絵画」などは、様々なメディアにも取り上げられて、若者の日本美術ブームの一端を担ったと思われる。</p> <p>奈良国立博物館の「北村昭斎」展は初めての「個人工房展」への試みであり、親子三代にわたる漆工芸の美しさが表現され、若者の間にも深く受け入れられたと思われる。</p> <p>京都国立博物館の「大絵巻展」は解説パネルや展示方法の工夫がなされ京都という土地柄も十分生かした企画だったと</p>
--	--	--	---	---

パネル等を80%以上設置する。 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、		<b>自己評価</b> 九州国立博物館の通年開館に伴い、入館者数は平常展、特別展ともに大幅に増加した(17年度311万5千人、18年度364万5千人)。これは運営方針である「平常展の活性化」に従って実施した事業により平常展の入館者数が大幅に増加したことが影響している。一方、特別展入館者数はわずかな増加にとどまっているが、話題となる展覧会を開催することができた。「大絵巻展」(京都)、「若冲と江戸絵画」(東京、九州)、「仏像」(東京)は特に当初入館者見込み数を大幅に上回った。 海外展については、日本文化を海外へ発信する上で重要であるので、今後も継続的に実施していく。	思われる。 なお、海外の博物館と連携した海外展は各国で大きな反響があり、入場者数も多く、日本の文化を海外に紹介して日本への理解の増進・国際文化交流に資するものとして評価できる。				
		平常展外国語の解読パネル等設置率	A	B	C	実績	定量的評価
		東京国立博物館	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	100%	A
		京都国立博物館	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	69%	B
		奈良国立博物館	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	56%	B
		九州国立博物館	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	100%	A
		特別展等入館者数	A	B	C	実績	定量的評価
		東京国立博物館	480,000人以上	336,000人以上 480,000人未満	336,000人未満	1,055,422人	A
		天台宗開宗1200年記念特別展「最澄と天台の国宝」	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	197,859人	A
		プライスコレクション「若冲と江戸絵画」展	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	317,712人	A



学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。	「仏像 一木にこめられた祈り」	150,000人以上	105,000人以上 150,000人未満	105,000人未満	335,489人	A
	中国国家博物館名品展「悠久の美」	80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未満	98,133人	A
	テ・パピ・トンガレワ名品展「マーオリ -楽園の神々-」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	72,720人	A
	「レオナルド・ダ・ヴィンチ 天才の肖像」(～3/31)	-	-	-	106,229人	
	京都国立博物館	110,000人以上	77,000人以上 110,000人未満	77,000人未満	410,018人	A
	「大絵巻展 - 国宝「源氏物語絵巻」 「鳥獣戯画」 など一堂公開」	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	186,772人	A
	「開館110年記念 美のかけはし」	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	59,280人	A
	「京焼 - みやこの意匠と技 - 」	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	25,283人	A
	「京都御所障壁画 御常御殿と御学問所 」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	138,683人	A
	奈良国立博物館	180,000人以上	126,000人以上 180,000人未満	126,000人以上	339,899人	A
	「大倉雄三 重源 - 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出 - 」	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	41,813人	A
	「北村昭斎 漆の技 」	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	14,571人	A

		「第58回正倉院展」	160,000人以上	112,000人以上 160,000人未満	112,000人未満	283,515人	A
		九州国立博物館	190,000人以上	133,000人以上 90,000人未満	133,000人以上	691,880人	A
		「中国 美の十字路口」(~4/2)	-	-	-	10,690人	
		「うるま ちゅら島 琉球」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	177,478人	A
		「発掘された日本列島2006」 「南の貝のものがたり」	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	63,560人	A
		「海の神々」	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	139,981人	A
		プライスコレクション「若中 と江戸絵画」展	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	300,171人	A
<p>(2) 情報発信機能の強化 文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて国立博物館及び日本の歴史・伝統文化及び東洋文化に対する理解が深まるよう努める。 ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信す</p>	<p>2. 情報発信機能の強化 ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。 今期5年間の収蔵品等に関する画像・文字のデジタル化件数の実績が、前中期目標期間の実績を上回るようにすること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b> <b>インターネットを利用した情報の発信</b> ・展示案内の5カ国版をホームページに掲載(京都) ・研究、展示などの情報をデータベース化した情報アーカイブ(第2web)サイトを推進(東京) ・ホームページ、メールマガジンによる情報の発信 ・ホームページに一般の方のブログをリンク(九州) <b>デジタル化の推進、レファレンスの充実</b> ・資料縮刷資料(図書13万件、雑誌5千件)のNACSIS-CATへの対応(東京) <b>自己評価</b> 情報発信機能については、従来より各館で発行している定期刊行物の他、九州国立博物館で絵本を発行するなど新たな試みを始めるなど積極的に取り組んでいる。</p>	<p>評定B <b>コメント</b> インターネットを活用し、研究、展示などの情報提供のサービスを推進していることは評価できる。 特に、京都国立博物館の5カ国語による情報提供や、子供向けのウェブ版はよくできており、今後は他の館ともリンクするなど工夫いただきたい。 前中期目標期間の実績に基づくウェブサイトのアクセス件数目標は、十分達成</p>			

<p>る。</p> <p>ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。</p> <p>- 1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、今期5年間の収蔵品等に関する画像・文字のデジタル化件数の実績が、前中期目標期間中の実績を上回るようにする。</p> <p>- 2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。</p>	<p>情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。</p>	<p>収蔵品等のデジタル化件数が大幅に目標値を下回っているが、これは運営費交付金の減少及び特殊要因による支出の増大に備え、デジタル化経費を最小限に抑えたためである。</p>	<p>できており、今後はさらに意欲的な活動目標を法人として設定するなど工夫し中期計画上の目標値にかかわらず引き続き努力をいたしたい。</p> <p>なお、収蔵品等のデジタル化は、予算上の都合により他事業を優先した結果抑制した館があるが、中期計画上の重要な事業であることから全体の中できちんと位置付けたい。</p>				
		ウェブサイトのアクセス年間平均件数（前中期目標期間の年間平均実績）	A	B	C	実績	定量的評価
		東京国立博物館 (1,928,966 件)	1,928,966 件以上	1,350,276 件以上 1,928,966 件未満	1,350,276 件未満	368 万 28 件	A
		京都国立博物館 (521,965 件)	521,965 件以上	365,376 件以上 521,965 件未満	365,376 件未満	75 万 7,812 件	A
		奈良国立博物館 (670,948 件)	670,948 件以上	469,664 件以上 670,948 件未満	469,664 件未満	124 万 9,608 件	A
		九州国立博物館 (783,487 件)	783,487 件以上	548,441 件以上 783,487 件未満	548,441 件未満	493 万 5,041 件	A
		収蔵品等に関する画像文字のデジタル化件数 (前中期目標期間の年間平均実績)	A	B	C	実績	定量的評価

<p>(3)日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進</p> <p>日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図るとともに、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。</p> <p>学校、社会教育関係団体、国内外の博物館・美術館と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。</p> <p>- 1教育普及活動の充実に寄与するよう国立博物館におけるボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。</p> <p>- 2企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</p> <p>(4)調査研究成果の反映</p>	<p>東京国立博物館 (画像18,829件) (文字4,276,550字)</p>	<p>18,829件以上</p> <p>4,276,549字以上</p>	<p>13,180件以上 18,829件未満</p> <p>2,993,585字以上 4,276,550字未満</p>	<p>13,180件未満</p> <p>2,993,585字未満</p>	<p>4,472件</p> <p>500,000字</p>	<p>C</p>	
	<p>京都国立博物館 (4,359件)</p>	<p>4,359件以上</p>	<p>3,051件以上 4,359件未満</p>	<p>3,051件未満</p>	<p>6,169件</p>	<p>A</p>	
	<p>奈良国立博物館 (8,471件)</p>	<p>8,471件以上</p>	<p>5,930件以上 8,471件未満</p>	<p>5,930件未満</p>	<p>3,830件</p>	<p>C</p>	
	<p>九州国立博物館 (1,890件)</p>	<p>1,890件以上</p>	<p>1,323件以上 1,890件未満</p>	<p>1,323件未満</p>	<p>1,986件</p>	<p>A</p>	
<p>3.日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進</p> <p>講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。</p> <p>ボランティア活動を支援すること。</p> <p>企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <p><b>学習機会の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特集展「動物」の開催及び、上野動物園との相互解読など連携企画を実施(東京)</li> <li>・キャンパスメンバーズ制度の創設(東京15大学、京都15大学、奈良12大学)</li> <li>・奈良女子大学21世紀COEプログラムとの共催講座「聖武天皇と奈良」の開設(奈良)</li> <li>・開館1周年記念特別展「海の神々」こどもガイドブックを刊行(九州)</li> <li>・特別展「南の貝のものがたり」会期中にヤコウガイのワークショップを実施(九州)</li> <li>・ジュニア学芸員(高校生を対象)活動の実施(九州)</li> <li>・特別展「プライスコレクション 若中七江戸絵画」教員向け内覧会を実施(九州)</li> </ul> <p><b>ボランティア活動の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアによる点字パンフレットの作成(東京)</li> <li>・ボランティアによる自主的な広報誌の作成、自主的な企画の実施(東京)</li> <li>・解読ボランティアによる正倉院展作品解読(奈良)</li> <li>・正倉院展期間中の外国人向け奈良観光案内ボランティア(奈良SGGクラブ)の実施(奈良)</li> <li>・ボランティア同士の自主学習の充実(九州)</li> </ul>	<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>若年層に博物館を親しませる試みは重要であり、講演会、ギャラリートークの参加人数が定量的目標値に僅かに欠けるが、学習機会の提供については様々な試みを非常にきめ細かく行っている点を評価する。</p> <p>特に、なかなか他では行っていない、九州国立博物館の高校生向け企画(ジュニア学芸員)などは、その成果を広く広報したい。また、キャンパスメンバーズ制度は、参加校も増加してきており、日本文化への理解が一層深まるよう更なる改善を望む。今後は、教育普及プ</p>				

<p>1(4)に掲げる各館の方針に従い、展示、教育普及その他の博物館活動推進のための研究計画を策定し、調査研究を計画的に実施するとともに、これらの成果を確実に業務に反映させる。なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館等及び文化財研究所その他研究機関とも連携を図るものとする。</p> <p>(5)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれる博物館を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。</p> <p>施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。</p> <p>一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、</p>			<p>・「ボランティアメッセ2006 IN 九博」を開催(九州)</p> <p><b>博物館支援者の増加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三菱商事株式会社と共同で身体障害者向け内覧会を実施(東京)</li> <li>照明デザイナー石井幹子氏によるライトアップイベント「光彩夜空」を共催(東京)</li> <li>友の会会員数の大幅な増加17年度2,386人 18年度3,784人(京都)</li> <li>太宰府市沿線活性化協議会(西日本鉄道主催)に参加(九州)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>国立博物館は国民への日本文化等の理解促進に繋がるような学習支援を行う役割がある。18年度は新たな試みとして、大学や地域と連携した新たな取組みにも取り組んだ。</p> <p>ボランティアは博物館の運営やお客様へのサービスを充実させていく上で欠かせない重要な資産である。今後は団塊世代が退職を迎えることにより、「生きがい」を求め、ボランティアを志すことも増えてくることが予測される。18年度実施したボランティアの勉強会や自主的な企画を今後も継続して支援するなど、ボランティア種別のバックアップを図るとともに、表彰制度を継続して実施することによってボランティア種別のインセンティブを高めることにより、博物館のサービスの向上にもつなげていくことを心がけた対応を行っていききたい。</p> <p>博物館支援者の増加は博物館運営において非常に重要であるが、企業からの寄附を求めることは次第に厳しくなっている。しかし、18年度企業の社会貢献種別への協力が賛助会への加入に繋がった例もあり、今後とも支援者の拡大に向けた取組みを行っていく必要がある。</p>	<p>プログラムなどは、企業協賛が可能な分野と考えられることから、新たな展開を期待する。</p> <p>九州国立博物館のバックヤードの見学は、文化財の保存修復という博物館活動への理解・関心を深める効果的な手段と評価できる。</p> <p>ボランティアの活用については、様々な取り組みが行われており、今後ともボランティアや支援者へのインセンティブ(感謝状や広報誌等への公表)など、気持ちよく活動していただくための工夫を継続していきたい。</p>	
	<p>講演会、ギャラリートークの参加者数 (前中期目標期間の年間平均実績)</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>実績</p> <p>定量的評価</p>
<p>東京国立博物館 (10,915人)</p>	<p>10,915人以上</p>	<p>7,641人以上10,915人未満</p>	<p>7,641人未満</p>	<p>9,922人</p>	<p>B</p>
<p>京都国立博物館 (5,181人)</p>	<p>5,181人以上</p>	<p>3,627人以上5,181人未満</p>	<p>3,627人未満</p>	<p>4,980人</p>	<p>B</p>

入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。	奈良国立博物館 (3,542人)	3,542人以上	2,479人以上3,542人未満	2,479人未満	2,743人	B
	九州国立博物館 (5,255人)	5,255人以上	3,679人以上5,255人未満	3,679人未満	6,494人	A
4. 展示、教育普及活動などの博物館活動のための調査研究 研究計画を策定すること。 調査研究の成果を確実に業務に反映させること。 文化財研究所、国内外の博物館・美術館等と連携すること。	各委員の協議により評定を決定する	<b>主な実績</b> ・平成6年頃より継続して行ってきた「日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」の成果を結実させ、特別展「仏像 - 一木にこめられた祈り」を開催（東京） ・長年にわたって継続的に実施している社寺調査や京都市街地の再開発に伴う発掘調査の成果を踏まえ、「京焼 - みやこの意匠と技 - 」を開催（京都） ・アメリカ・サッカー美術館での調査で判明した如来像の手を「重源」展で展示（奈良） <b>自己評価</b> 調査研究は博物館活動の要であるが、18年度は「仏像展」（東京）をはじめとして、「京焼」展（京都）、「重源」展（奈良）などでその成果を展示に反映させることができた。このほかにも講演会やシンポジウムなど研究成果は様々な形で事業に反映されているが、今後もよりわかりやすい形で成果を発信していく必要がある。	評定A <b>コメント</b> 研究成果が、展示という形で結実したことはすばらしく、調査研究の成果をわかりやすい形で発信していることは評価される。			
5. 快適な観覧環境の提供施設のバリアフリー化を進めること。 利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を	各委員の協議により評定を決定する	<b>主な実績</b> ・表慶館を改修するとともに、案内誘導サインを整備、1階部分はバリアフリー対応（東京） ・特別展覧会開催時の混雑状況をホームページやハローダイヤルにより案内（京都） ・土曜講座の整理券方式の導入（京都） ・本館出入口横に手すりを設置（奈良） ・ミュージアムショップオリジナルグッズを開発（奈良） ・快適な観覧環境を提供するための展示施設等の温湿度調査を実施（九州） ・来館者の要望を踏まえ冷水器の設置などを実施（九州） ・西日本鉄道と連携して、特別展観覧券付き割引キップを販売（九州） ・来館者の緊急事態に備え、AED（自動体外式除細動器）を設置し、職員とボランティアに対し、普	評定B <b>コメント</b> 各館とも、予算を捻出して少しずつ快適な空間づくりを進めているのは評価できる。 さらに、博物館に行くことが楽しいと思われるように、ミュージアムショップでの販売物も魅力あるものにするような工夫が一層必要である。 なお、特別展での混雑の緩和策について			

	<p>改善すること。</p>		<p>通救命講習を実施(全館)          ・上級救命講習の受講(警備系衛士が受講)(京都)</p> <p><b>自己評価</b>          来館者の要望等を踏まえ、快適な観覧環境を提供できるよう様々な取組みを行っている。          一方で混雑等により快適な環境の提供という観点では課題が生じている。現在は、混雑が予想される展覧会において、HP上で混雑状況や待ち時間の目安を表示したり、開館時間を延長するなどの対応を実施しているが、今後さらによりよい観覧環境を提供できるよう対応を検討していく必要がある。</p>	<p>では、各館、各展覧会により事情が異なるために、一概に評価出来ないものと考えられるが観覧者が多い状況に十分に配慮してそれぞれに特徴のある手を打つなど、努力が伺える。          京都国立博物館の混雑状況のウェブ上の案内や、奈良国立博物館の正倉院展における会場入口3カ所・最寄り駅等における混雑状況表示、観覧趣旨と主要作品を記載した会場内見取図の会場外での事前配布等は大いに評価される。          特別展での混雑緩和については、他国の例なども参考にして、予約制や、会期の延長、日時を限定した入館券の発券など、緩和方策について、共催者の協力も得て、検討が早急に必要であり、今後ともより一層対策を講じてもらいたい。</p>
--	----------------	--	---	---

3. 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

評定

A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

保存・修復の分野では、概念の構築、調査研究の新たな成果の公表・普及に努めている。

また、国際シンポジウムの開催、アジア国立博物館協会（ANMA）の設立準備、海外研究者の招聘等により、充実した国際的活動がなされている。

これらの成果が、公私立博物館・美術館に対する援助・助言、保存修理者に対する支援などを通じて、博物館・美術館・保存修復関係者にも一層及ぶことを期待したい。

また、19年度の文化財研究所との統合も踏まえ、ナショナルセンターとしての役割を一層果たすことが期待される。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価
		S	A	B	C	F		
<p>(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。</p> <p>(2) 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう</p>	<p>刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。</p> <p>海外の優れた研究者を招聘し博物館活動に対する示唆を得ること。</p> <p>文化財研究所と連携し、博物館関係者等の研修プログラムについて検討、実施すること。</p>	S	A	B	C	F	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p> <p>(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信</p> <p><b>主な実績</b></p> <p><b>出版物等を通じた情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正倉院展図録の英語版を刊行（奈良）</li> <li>・読売新聞、朝日新聞紙上にて奈良国立博物館の名宝、仏教美術について定期的に掲載（奈良）</li> <li>・紀要「東風西声」第2号、「きゅうはくの絵本」（2巻）刊行（九州）</li> </ul> <p><b>シンポジウム等の開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館情報アーカイブズ（第2ウェブサイト）（研究など展示以外の博物館活動の情報データベース）の試行版運用を開始（東京）</li> <li>・公開研究会「博物館情報学の構築」を開催（東京）</li> <li>・国際シンポジウム「博物館における保存学の実践と展望 - 臨床保存学と21世紀の博物館 -」（東京）</li> <li>・国際シンポジウム「京焼へのまなざし」（京都）</li> </ul>	<p>評定A</p> <p>コメント</p> <p>文化財の保存管理、保存修復について、伝統技術に加え、科学的分析や解析、新しい保存処置などの調査研究を行い、博物館におけるナショナルセンターとしての役割を果たし、その成果を上げていると考える。</p> <p>臨床保存学の提唱は、非常に明快に、かつ理論的に概念を構築し、従来ではなされてこなかった文化財保存の在り方を示している。この概念を博物館・美術館</p>



<p>努める。</p> <p>(3)博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館・美術館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど推進するための具体的措置を講ずることとする。</p> <p>(5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。</p>	<p>公私立博物館・美術館に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること。</p> <p>公私立博物館・美術館に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正倉院学術シンポジウム「正倉院宝物と8世紀東アジアの文化」(奈良)</li> <li>・国際研究集会「高麗時代の美術」(奈良)</li> <li>・国際シンポジウム「漢字文化のひろがり - 日本・韓国出土の木簡を中心に - 」(九州)</li> <li>・国際シンポジウム「東アジア文化財保存サミット」(九州)</li> <li>・国際シンポジウム「博物館教育の活性化へ向けて～アジアの博物館教育の現場から～」(九州)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>収蔵品等に関する調査研究成果の発信は出版物、インターネット、各種シンポジウム等を通して行われているが、新聞紙上での定期掲載や絵本の作成など新たな試みが始まっているので、今後も継続的に博物館活動を発信していく必要がある。また、国際シンポジウムの開催は情報の発信にとどまらず、国際交流の進展にも効果があるので、今後も積極的に実施していきたい。</p> <p>(2)海外研究者の招聘</p> <p><b>主な実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア国立博物館協会(ANMA)設立準備に参加(東京)</li> <li>・「京焼」展関連で5人の研究者を招聘、研究者の海外派遣も行い、国際交流を推進(京都)</li> <li>・上海博物館、慶州博物館(韓国)、韓国国立中央博物館との研究交流を実施(奈良)</li> <li>・南京博物院長を招聘し、学術交流協定締結に向けて意見交換を実施(九州)</li> <li>・韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館と学術文化交流協定を締結(九州)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>アジア国立博物館協会(ANMA)の設立が決定され、アジア諸国の国立博物館の連携・協力の枠組みができることとなった。また、中国、韓国の博物館との学術協定の締結などアジア各国との連携強化を図っている。国際シンポジウム等に海外から研究者等を招聘し、先進的な事例を紹介するなど国際文化交流の推進を図っている。</p> <p>(3)保存修理者への研修プログラム</p> <p><b>主な実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存修理所と連携した研修会の実施(奈良)</li> </ul>	<p>ならびに保存・修復関係者に広げることには大きな意味を持つものと思われる。</p> <p>特に、収蔵品の保存環境の調査研究の成果については、広く公私立の美術館・博物館に公開し、保存体制のナショナルセンターとしての役割を一層果たしてほしい。</p> <p>また、アジア国立博物館協会(ANMA)の設立への参加は評価でき、設立後の活動として、より研究交流がさかんになり、成果が企画展という形で、公表されることを期待する。</p> <p>公私立博物館等に対する援助・助言は適切にこなされており、これらを通じて、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成がなされてきている。</p> <p>また、博物館活動を担う中核的な人材を育成する研修は是非進めてほしい。</p>
--	---	--	---	---

(6)文化財研究所と連携を図り、博物館種別を担う中核的な人材を育成する研修等を実施する。	・「有形文化財の修理について」(福岡県博物館協議会主催)へ会場提供 講師派遣等の協力(九州) ・シンポジウム「東アジア文化財保存サミット」の開催(九州) <b>自己評価</b> 保存修理者は文化財を後世へ継承していくために重要な役割を担っているため、国立博物館はナショナルセンターとして、今後も継続的に研修等を通じた支援を実施していく。  (4)収蔵品貸与の推進 <b>主な実績</b> ・富山市佐藤記念美術館「広田不孤斎コレクション」展へ137点貸与(東京) ・考古資料の相互貸借70件(四国地区埋蔵文化財センター)(東京) ・韓国国立中央博物館の平常展示のため103件を長期貸与(継続)(東京) <b>自己評価</b> 国内外の博物館等に積極的に文化財貸与を実施している。特に韓国国立中央博物館への文化財の長期貸与は、日本文化の海外への発信という観点からも継続的に実施していく必要があると思われる。  (5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言 <b>自己評価</b> 我が国博物館のナショナルセンターとして、主に収蔵品の貸与等を通じて、文化財の保存、展示などの分野で援助、助言を実施し、公私立博物館・美術館と協力関係を築いてきた。地方の博物館等から国立博物館に期待される役割は大きいので、今後も積極的に援助・助言を実施していきたい。					
	公私立博物館に対する援助助言実績 (前中期目標期間の年間平均実績)	A	B	C	実績	定量的評価面
	東京国立博物館 (40件)	40件以上	28件以上40件未満	28件未満	56件	A

		京都国立博物館 (12件)	12件以上	8件以上12件未満	8件未満	28件	A
		奈良国立博物館 (5件)	5件以上	3件以上5件未満	3件未満	7件	A
		九州国立博物館 (12件)	12件以上	8件以上12件未満	8件未満	57件	A
		<p>(6) 博物館活動を担う中核的な人材を育成する研修の実施                  18年度は締めに留まり、実施には至らなかった。19年度以降文化財研究所を含めた取組みを検討していく必要がある。</p>					

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定

A

中期計画を上回って履行し、中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

定量的指数である一般管理費効率化率、業務経費効率化率、人件費削減率が十分に達成されている。  
 なお、事業規模が拡大すれば、管理費等は増大するため、画一的な効率化には自ずから限界がある。そのため、新しい指標を独自に設定することを検討すべきである。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価																			
		S	A	B	C	F																					
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図る。	1.業務の効率化 中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ること。 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化を図ること。 使用資源の減少を図ること。 施設有効使用の推進・博物館施設の利用推進を	各委員の協議により評定を決定する。					<b>主な実績</b> ・民間委託の推進 ・複数年契約や包括契約の実施 ・一般競争入札の拡大 (1)事務の一元化 人事システムの一元化、会計システムの一元化など業務の一元化による効率化を図っている。 (2)使用資源の減少 (単位:千円)	評定A <b>コメント</b> 定量的指標である一般管理費効率化率、業務経費効率化率については達成され、また、省エネルギー化・廃棄物減量化についても十二分に達成している。 各博物館の共通の事務の一元化を実施するとともに、透明性を高め費用削減を図るために、複数年契約や包括契約の実施及び一般競争入札を行ったことは、業務の効率化の為に望ましいことであり、評価できる。 また、厳しい条件の下でも施設の有効利用がなされるよう、引き続き努力																			
						<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料</td> <td>359,108</td> <td>327,722</td> <td>-31,386</td> </tr> <tr> <td>水道料</td> <td>75,529</td> <td>73,148</td> <td>-2,381</td> </tr> <tr> <td>ガス料</td> <td>87,681</td> <td>95,213</td> <td>7,532</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>522,318</td> <td>496,083</td> <td>-26,235</td> </tr> </tbody> </table>		17年度	18年度	差額	電気料	359,108	327,722	-31,386	水道料	75,529	73,148	-2,381	ガス料	87,681	95,213	7,532	計	522,318	496,083	-26,235	
	17年度	18年度	差額																								
電気料	359,108	327,722	-31,386																								
水道料	75,529	73,148	-2,381																								
ガス料	87,681	95,213	7,532																								
計	522,318	496,083	-26,235																								

<p>具体的には下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 使用資源の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー（5年期中1年に1.03%の減少）</li> <li>・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を5年期中5%減少）</li> <li>・リサイクルの推進</li> </ul> <p>(3) 施設有効使用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館前施設の利用推進</li> </ul> <p>(4) 民間委託の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。</li> <li>・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する</li> <li>・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進</li> </ul>	<p>図ること。</p> <p>民間委託の推進を図ること。</p> <p>競争入札の推進を図ること。</p>	<p>図ること。</p> <p>民間委託の推進を図ること。</p>	<p>ガスについては使用量は減少しているが単価の上昇により金額ベースでは削減できていないが、電気料・水道料・ガス料全体で、前年度比5.0%のマイナスを達成している。</p> <table border="1" data-bbox="938 244 1753 336"> <thead> <tr> <th></th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>増減率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般廃棄物(kg)</td> <td>213,334</td> <td>173,472</td> <td>18.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 施設の有効利用</p> <p>18年度も昨年同様施設の有効利用を進め、6,170万円の収入を得た(17年度:8,050万円)収入の大幅に減少したのは、東京国立博物館で消防法の制限から主要な貸出し施設であった本館特別第5室が使用できなくなったこと、17年度に大型の施設貸出しイベント(収入:1,800万円)が実施されたことによる。</p> <p>(4) 民間委託の推進</p> <p>施設の管理・清掃業務や東京国立博物館の資料館の図書の貸出業務など様々な部分で民間委託を推進している。</p> <p>(5) 競争入札の推進</p> <p>18年度は43件の一般競争入札を実施(17年度:50件)17年度に比して件数は減少しているが、包括的契約、複数年契約を実施するなど経費の効率化に努めている。</p> <p>自己評価</p> <p>業務の効率化を図るために様々な取組みを実施しているが、今後も継続的に実施していく必要がある。しかし、運営費交付金が年々削減されていく中で、現状の組織の体制のままではその対応は難しい。今後は抜本的な業務の効率化を図るような取組みを行っていく必要がある。</p> <p>使用資源の減少については、全体として、省エネルギー化、廃棄物の減量化とともに概ね目標を達成できている。ガスの省エネルギー化については、目標である1.03%を達成できなかったが、これは、展示会の入館者数増による空調の使用量増加によるものである。</p>		17年度	18年度	増減率(%)	一般廃棄物(kg)	213,334	173,472	18.7%	<p>いただきたい。</p> <p>なお、事業規模が拡大すれば、管理費等は増大するため、画一的な効率化には必ずから限界がある。そのため、新しい指標を独自に設定することを検討すべきである。</p> <p>外部委託の取組が評価できるが、さらなる外部委託の導入に際しては、入館者へのサービス低下がないように一層の指導監督が必要になる。</p>
	17年度	18年度	増減率(%)									
一般廃棄物(kg)	213,334	173,472	18.7%									
		<p>一般管理費効率化率 (対前年度比)</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>実績</td> </tr> </table>	A	B	C	実績	<p>定量的評価</p>				
A	B	C	実績									

<p>める (5)競争入札の推進 ・契約業者の競争を一層推進することにより、経費の効率化を図る。</p>			3.2%以上	2.24%以上3.2%未満	2.24%未満	3.2%	A
		業務経費効率化率 (対前年度比)	A	B	C	実績	定量的評価
2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	2. 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	各委員の協議により評定を決定する。				1.03%	A
3 国立博物館が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。	2. 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	各委員の協議により評定を決定する。	<p><b>主な実績</b></p> <p><b>事業評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実績報告書作成時の自己点検評価の実施(年1回)</li> <li>・外部評価委員会の開催(年2回)及び外部評価報告の実施(年1回)</li> <li>・監事による業務監査の実施(年1回)</li> <li>・文部科学省独立行政法人評価委員会美術館・博物館部会による評価</li> <li>・総務省独立行政法人評価委員会による評価</li> </ul> <p><b>職員の意識改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金に関する研修会の実施(本部・東京)</li> <li>・監事による講演会「博物館の運営における原価意識について」の実施(奈良)</li> <li>・館内職員を集めた業務改善プロジェクトの実施(東京)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>事業評価を実施し、その結果を適宜事業に反映している。具体的には外部評価委員会での指摘を受けて実施した、奈良国立博物館におけるミュージアムオリジナルグッズの開発・販売や文部科学省評価委員会での指摘を受けて推進した、研究成果をより広く広報するための第2ウェブの公表(東京)などがある。今後はより組織的に評価結果をフィードバックして事業に反映させていくことが必要となる。</p> <p>職員の意識改革については、研修等を通じた取組みを行っているが、より一層の強化が必要である。</p>				<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>評価の結果を事業に反映していることは評価できる。</p> <p>内部統制の整備・運用についてはルールや手続が内部規程やマニュアルに明示され、法人内のすべての者がそれぞれの立場で理解しており、かつ、文書処理・記録等も適切になされ、ダブルチェックなど相互牽制・承認体制を通じて不注意やミスの発生を減少させるなどの運用がなされている。また、科学研究費補助金の執行状況等に対する監査も含め適切になされている。</p> <p>また、コスト削減のためになされる様々な努力の成果の原は、外からの評価ではなく内部にあると考えられるので、東京国立博物館の「館内職員を集めた業務改善プロジェクト」のよう</p>
4 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、人件費については、平成22年度において、平成17年度に比較して、5%以上削減する。ただし、今後の人事							

<p>院報告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。</p>							<p>な職員の意識改革を進める取組みが他館においても同様に実施されるよう努力されたい。</p>	
<p>その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り込む。</p>	<p>3. 情報の安全向上 国立博物館が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバー室内に設置しているサーバーを防震装置の上に設置することによって、免震化を図った。(東京)</li> <li>・福岡県、法人、保守業者による定例会を毎月開催。アクセスログの監視を強化するなど対応を図った。(九州)</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>情報セキュリティの向上は国立博物館にとっても早急に対応しなければならない事項の一つである。19年度には文化財研究所との統合もあるため、統合後、情報セキュリティポリシーの策定やC I Oの設置などについて検討し、情報の安全性向上を図っていく必要がある。</p>				<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>情報セキュリティの向上のための様々な取組みは評価できる。文化財研究所との統合も踏まえ、法人全体として一層の情報の安全性向上に努めてほしい。</p>	
<p>4. 人件費の削減 平成22年度において、平成17年度に比較して5%以上削減すること。</p> <p>その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に</p>	<p>4. 人件費の削減 平成22年度において、平成17年度に比較して5%以上削減すること。</p> <p>その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現業職員の定年退職後不補充による人件費抑制</li> </ul> <p><b>自己評価</b></p> <p>平成17年度に比較して平成18年度から平成22年度までの5年間で5%以上の人件費の削減が政府方針で決められている。今後は職員の定年退職後不補充だけでは対応は難しいので、業務の効率化を通じた抜本的な改革が必要である。</p>				<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>前年度に比して人件費は大きく削減されており、高く評価できる。今後の人件費削減にも配慮した業務の効率化は大変だろうと思うが、文化財研究所との統合による業務効率化のための新しい工夫を期待したい。</p>	
<p>人件費削減率 (対平成17年度比)</p>			A	B	C	実績	定量的評価	

	取り組むこと。		1.03%以上	0.72%以上 1.03%未満	0.72%未満	3.4%	A
			平成 17 年度人件費 1,784,466 千円 平成 18 年度人件費 1,722,757 千円 $( 1,722,757 - 1,784,466 ) \div 1,784,466 \times 100 = -3.4$				



財務・人事

評定

A

中期計画通りに履行し、中期目標に向かって順調に実績を上げている。

評価のポイント

概ね適切な予算による運営が行われている。

運営費交付金の年々削減の中で、展示事業収入や、寄附金や研究費の外部資金が額・件数とも伸びているのは高く評価できる。

また、良い企画による入館者数の増加については展示事業収入の増は、経営努力の賜物であると言え、このような努力が報われるようなインセンティブが必要である。

中期計画	主な計画上の評価指標	評価基準					主な実績及び自己評価	評価委員会による評価																																																
		S	A	B	C	F																																																		
<p>予算（人件費の見積もりを含む）収支計画及び資金計画</p> <p>収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。</p> <p>また、管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。</p> <p>1 予算（中期計画の予算）別紙のとおり</p>	<p>1. 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画（中期計画）</p> <p>外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。</p> <p>適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。</p>	各委員の協議により評定を決定する。					<p><b>主な実績</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>（収入）</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> <th>差引増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営費交付金</td> <td>6,103,239</td> <td>6,103,239</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>施設整備費補助金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>展示事業収入</td> <td>1,045,359</td> <td>1,478,163</td> <td>432,804</td> </tr> <tr> <td>その他寄附金等</td> <td>0</td> <td>51,186</td> <td>51,186</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,148,598</td> <td>7,632,588</td> <td>483,990</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>（支出）</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> <th>差引増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営事業費</td> <td>7,148,598</td> <td>6,863,877</td> <td>284,721</td> </tr> <tr> <td>管理経費</td> <td>1,438,631</td> <td>1,860,304</td> <td>-421,673</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>608,271</td> <td>1,000,598</td> <td>-392,327</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>830,360</td> <td>859,706</td> <td>-29,346</td> </tr> <tr> <td>業務経費</td> <td>5,709,967</td> <td>5,003,573</td> <td>706,394</td> </tr> </tbody> </table>	（収入）	予算額	決算額	差引増減額	運営費交付金	6,103,239	6,103,239	0	施設整備費補助金	0	0	0	展示事業収入	1,045,359	1,478,163	432,804	その他寄附金等	0	51,186	51,186	計	7,148,598	7,632,588	483,990	（支出）	予算額	決算額	差引増減額	運営事業費	7,148,598	6,863,877	284,721	管理経費	1,438,631	1,860,304	-421,673	人件費	608,271	1,000,598	-392,327	一般管理費	830,360	859,706	-29,346	業務経費	5,709,967	5,003,573	706,394	<p>評定A</p> <p><b>コメント</b></p> <p>展示事業収入・寄附金等の収入増の努力や耐震対策等により予算額と決算額の乖離はあるが、概ね適切な予算による運営が行われたと判断できる。</p> <p>運営費交付金の年々削減の中で、寄附金や研究費の外部資金が額・件数とも伸びているのは高く評価できる。引き続き獲得に努力願いたい。</p> <p>また、良い企画による入館者数の増加については展示事業収入の増は、経営努力の賜物であると言え、このような努力が報われるようなインセンティブが必要である。</p>
（収入）	予算額	決算額	差引増減額																																																					
運営費交付金	6,103,239	6,103,239	0																																																					
施設整備費補助金	0	0	0																																																					
展示事業収入	1,045,359	1,478,163	432,804																																																					
その他寄附金等	0	51,186	51,186																																																					
計	7,148,598	7,632,588	483,990																																																					
（支出）	予算額	決算額	差引増減額																																																					
運営事業費	7,148,598	6,863,877	284,721																																																					
管理経費	1,438,631	1,860,304	-421,673																																																					
人件費	608,271	1,000,598	-392,327																																																					
一般管理費	830,360	859,706	-29,346																																																					
業務経費	5,709,967	5,003,573	706,394																																																					

2 収支計画 別紙のとおり			人件費	1,758,809	1,082,460	676,349
			展覧事業費	3,143,156	2,984,408	158,748
3 資金計画 別紙のとおり			調査研究事業費	691,512	868,414	-176,902
			教育普及事業費	116,490	68,291	48,199
			施設整備費	0	517,980	-517,980
			計	7,148,598	7,381,857	-233,259

  

**外部資金の獲得状況**

科学研究費補助金	21件	5,275万円(17年度)	22件	8,386万円
研究助成金	9件	2,235万円(17年度)	0件	0万円
寄附金	201件	4,219万円(17年度)	153件	5,119万円
合計	231件	1億1,729万円(17年度)	175件	1億3,505万円

**自己評価**

決算額の収入は予算額と比較して4億8,400万円の増加であった。その内訳は展示事業収入4億3,300万円、その他寄附金等5,100万円である。増加の主な理由は特別展における入館者数が目標値を超えたこと、年度計画で予定していなかった特別展(京都国立博物館 障壁画展)を実施し、好評を得たことなどによる。

決算額の支出は予算額と比較して2億3,300万円の増加であった。その内訳は施設整備費5億1,800万円の増加、運営事業費2億8,500万円の減少である。その主な理由は建物の耐震対策として事業費の一部を施設整備に回した事による。

運営費交付金の収益化に関する状況：運営費交付金収益の計上基準について、費用発生型基準を採用している。なお、期末残高に計上されている運営費交付金債務7億8,300万円を除き、運営費交付金は収益化されている。

人件費、事業費ともに削減されていく中で、自己収入の増大、外部資金獲得の推進、業務の効率化を進めることができた。

<p>短期借入金の限度額 短期借入金の限度額は10億円</p> <p>短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。</p> <p>重要な財産の処分等に関する計画 京都国立博物館新館の取り壊し予定。</p> <p>剰余金の使途 決算において、剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化財の購入・修理</li> <li>2 調査研究、出版事業の充実</li> <li>3 展覧会の充実</li> <li>4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための施設設備の充実</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期借入金の借入実績なし</li>   <li>・重要な財産の処分なし</li>   <li>・業務拡充積立金として287,275千円を申請予定</li> </ul>	
---	--	--	---	--

<p>その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>1 人事計画に関する計画 (1)方針 国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員的能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。 人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを</p>	<p>2. 人事計画に関する計画(中期計画 1)</p> <p>職員的能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。 任期付研究員制度の導入を図る。 人事交流、職員の研修等に努めること。</p>	<p>各委員の協議により評定を決定する。</p>	<p><b>主な実績</b></p> <p>職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化を勘案し、法人全体で5人の研究職員(日本絵画2人、日本工芸1人、仏教絵画1人、東洋工芸1人)を新規採用した。</p> <p><b>1. 職員的能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入</b> 国家公務員の給与構造改革に基づく人事院報告に沿って、国同様に俸給構造を見直し、勤務実績に基づく処遇が可能な人事・給与制度への変更を進めた。</p> <p><b>2. 効率的かつ効果的な調査研究を実施するため、任期付研究員制度を導入する。</b> 法人独自の任期付研究員の就業規則を整備するとともに、新たに奈良国立博物館で1人の採用を行い、計2人となった。</p> <p><b>自己評価</b> 国家公務員の制度改革の動向を勘案した制度を取り入れている。</p>	<p>評定A</p> <p><b>コメント</b> 任期付研究員の制度は、流動性に乏しい日本では困難な問題があるが、順次実施していることは評価できる。 なお、新規採用(5人)ができたことと併せ人材育成にも注力する必要がある。 また、10年、20年後を見据えた長期の人事計画・展望を持ち、専門職員の育成と世代交代がスムーズに行われるよう法人全体で考えていく必要がある。</p>
---	---	--------------------------	--	---

<p>活かした制度を活用する</p> <p>(2) 人員に係る指標</p> <p>常勤職員については、その職員数の抑制を図る。</p> <p>(参考1)</p> <p>1) 期初の常勤職員数 241人</p> <p>2) 期末の常勤職員の見込み 241人</p> <p>(参考2) 中期目標期間中の 人件費総額見込額 9,578百万円</p> <p>但し、上記の額は、役職員 に対し支給する報酬(給与) 、賞与、その他の手当の合計 額であり、退職金、福利厚生 費を含まない。</p> <p>2 別紙のと通りの施設整備 に関する計画に沿った整備を 推進する。</p>				
--	--	--	--	--